

あれから10年

山線 No.2



三河線廃線区間





矢作川

両枝橋の枝下方に「枝下の渡し場跡」がある。明治時代初めまでは橋を架ける技術もなく専ら渡し船で渡っていた。枝下の渡し場は、中山道の脇道として栄えた飯田街道は善光寺街道・参宮街道・塩の道中馬街道などと呼ばれ多くの旅人や商人が利用し賑わった。西枝下村と東枝下村間の渡し船は江戸時代の享保3年(1718)に運行され、昭和27年(1952)まで続いていた。

増水時の目印として、測り岩(量水岩)があり、この岩が水中に隠れると船留めにしたという。

場所は枝下1号踏切を川辺に降りると渡船場跡がある。途中になぜか「菅江真澄」(江戸時代後期の)旅行・紀行家、渥美郡牟田村出身(現・豊橋市)の歌碑がある。

“渡し場のあとに佇みややに澄む 冷たき流れに手を浸しみる” 私の推測だが、この渡し場に立ち寄った時に詠んだ句ではないかと思う？



枝垂れ桜 3分咲き…平成20年4月2日



散り始めたれ桜…平成20年4月15日

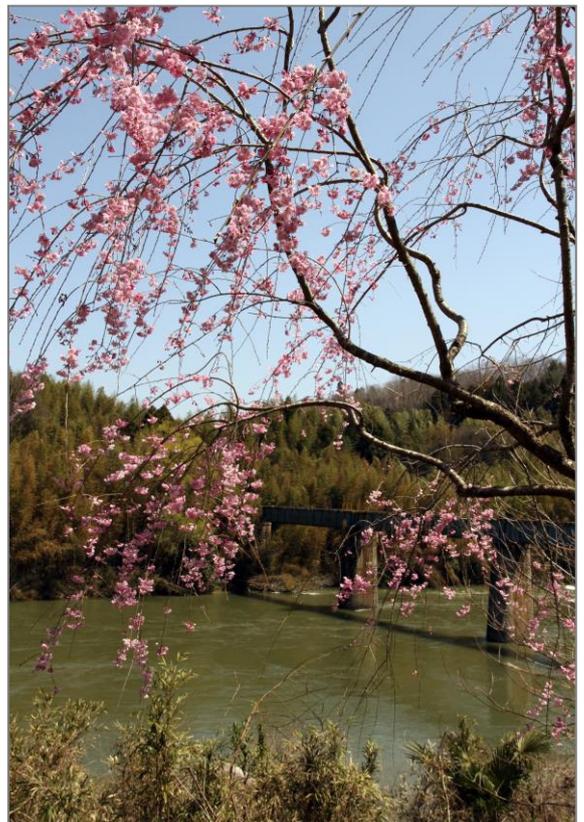




枝垂れ桜開花…平成 21 年 3 月 30 日



平成 21 年 4 月 6 日



平成 22 年 4 月 3 日



平成 17 年 8 月 28 日



唯一三河広瀬側から撮る…平成 18 年 4 月 24 日

平成 23 年 5 月 8 日





枝下平岩バス停から矢作方を見る…平成 20 年 5 月 21 日

枝下 1 号踏切から枝下方を見る…平成 24 年 5 月 30 日





川面から吹き上げる心地よい風…平成 19 年 6 月 11 日

川は生きている(台風 4 号の贈り物)→濁流…平成 19 年 7 月 16 日





河畔の秋…平成 21 年 11 月 3 日



河川敷のススキ…平成 21 年 11 月 18 日

山も川も秋色に…平成 21 年 11 月 28 日





左岸から静かな川原を…平成 23 年 11 月 17 日

帰りがけに右岸から…平成 23 年 11 月 17 日





枯れた枝垂れ桜の木に雪が絡まる…平成 24 年 2 月 2 日





枝垂れ桜 3 本中 1 本枯れ果てて…平成 24 年 2 月 2 日

枝下

この地には木節粘土(陶磁器の原料)や珪砂(ガラスの原料)の鉱脈あり、農家の副業として

採掘していたが、三河鉄道が開業し、ますます盛んになっていった。一口に言えば、木節粘土や珪砂の積み出しのため造られた駅と言っても過言ではない。三河線の山線で一番乗降客が少ない駅でもあった。

枝下用水の取水口は、現在越戸発電所の施設を共用しているが、昭和4年越戸ダムに変更されるまで枝下駅から300m猿投方の矢作川右岸にあった。(用水取水口の石わく跡が見えます)

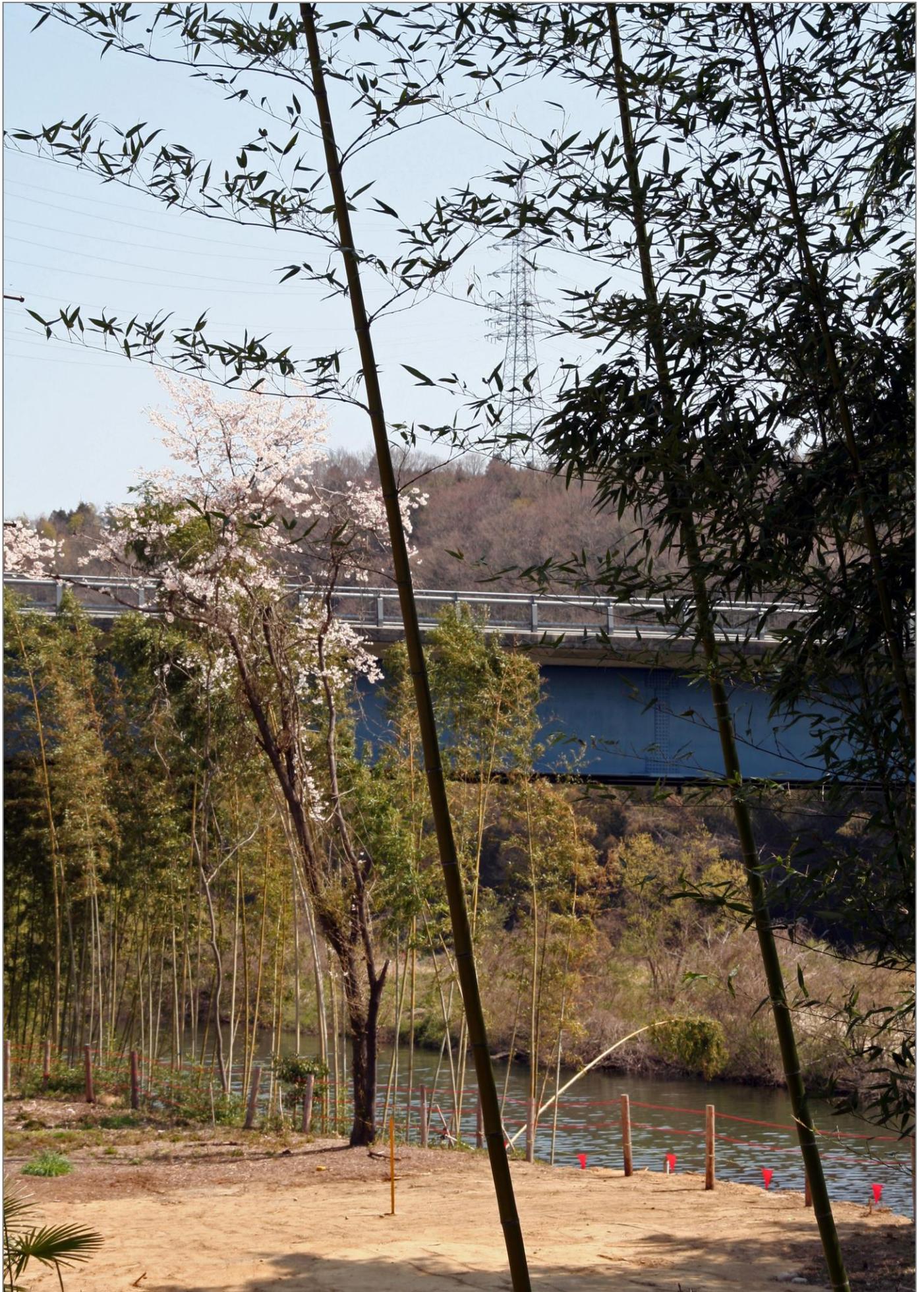
最近、住民のボランティアの手で、その取水口の石わく(下の写真)跡まで竹林を伐採し近道が完成した。

また、線路跡も軌道間に細かいバラスを入れ雑草防止兼歩行を容易にした。



平成24年1月7日



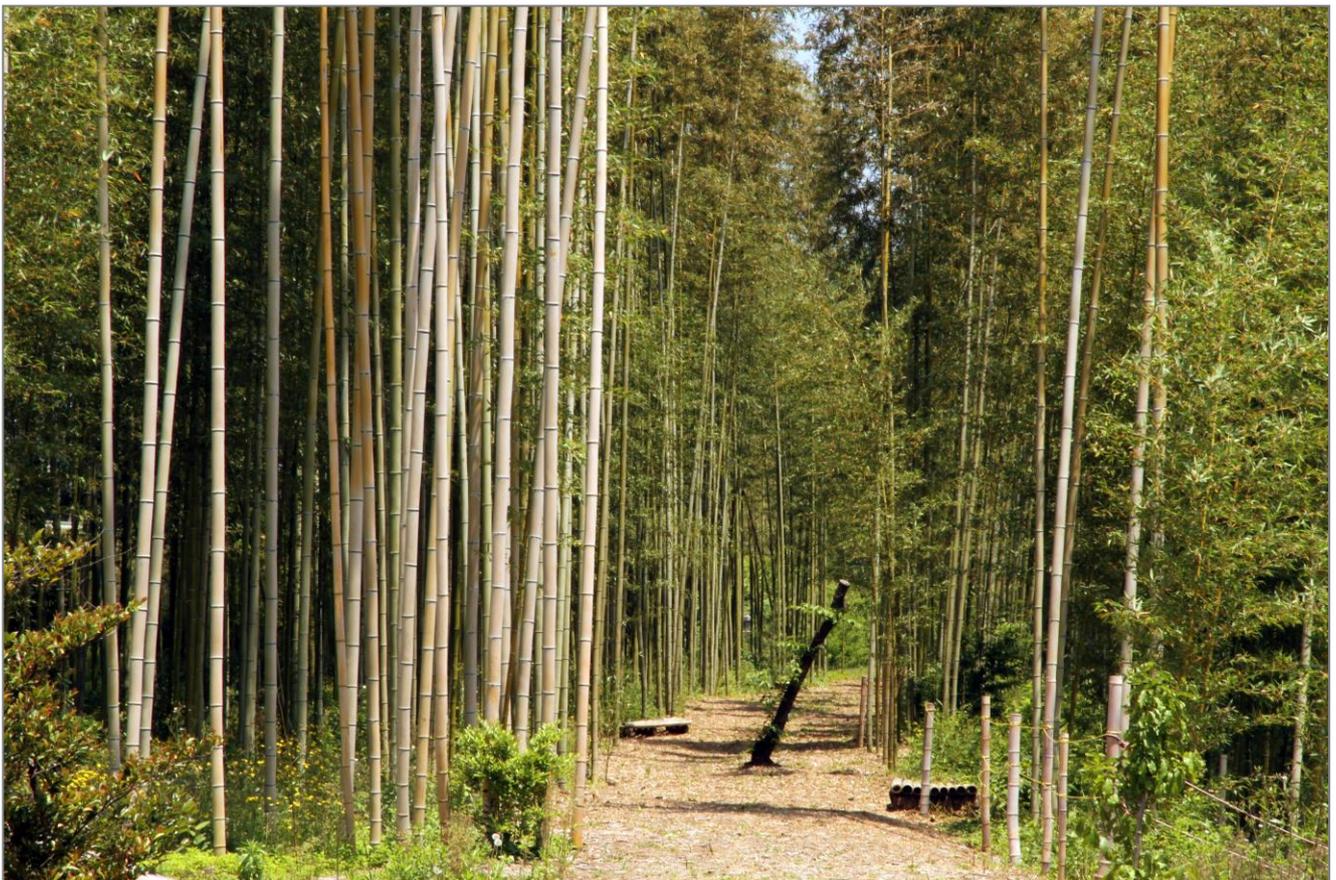


孟宗竹&山桜…平成 20 年 4 月 4 日



桜と若葉と清流と平成 24 年 4 月 12 日

三河広瀬方の竹林です…平成 24 年 5 月 19 日





花壇に紅色のカンナが…平成 21 年 8 月 11 日



ある夏の日 平成 21 年 8 月 11 日



アガパンサスも咲き出す…平成 24 年 6 月 29 日



桔梗の花…平成 21 年 7 月 9 日



草生い茂る…平成 22 年 7 月 30 日



鶏頭…平成 24 年 8 月 12 日



楓色付く…平成 20 年 11 月 12 日

秋・紅葉本番…平成 18 年 11 月 28 日





今年も紅葉のシーズンが…平成 21 年 11 月 28 日

山も秋の衣替え…平成 23 年 11 月 28 日





入口に工事用柵で通せん坊…平成 17 年 12 月 19 日

ホーム横の柵外から…平成 17 年 12 月 19 日





平成 24 年 2 月 2 日



手前は伐採された竹…平成 24 年 2 月 2 日

雪空は目まぐるしく変化 薄日が差したかと思えば急に降り出す

アケビ棚も寒そう…平成 24 年 2 月 2 日

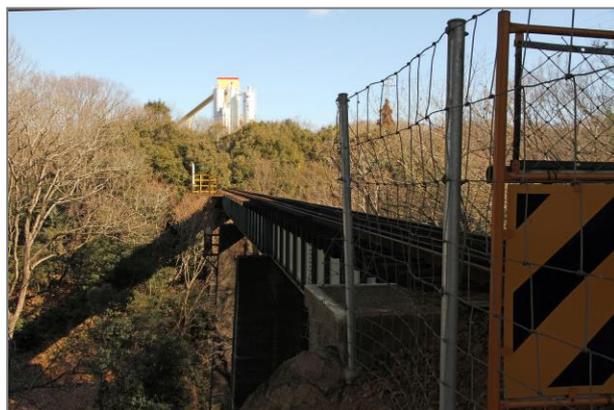


御船川橋梁

鉄橋と橋梁の違いは？ と問われれば、ほぼ同じと答えます。鉄橋は俗語で、正式には橋梁です。鉄橋とは、鉄道橋と鉄でできた橋の二つの意味が…。ところで、この御船川橋梁は、名鉄では一番高い橋梁です。何十メートルだったか忘れましたが…。長さは71.4メートルです。今では「東海環状自動車道」の下になり、一生陽の当たらぬ運命に晒されています。



平成 22 年 11 月 6 日



平成 24 年 1 月 7 日



平成 22 年 11 月 18 日



三河御船

三河御船は枝下と同じく昭和2年8月26日開業した。開業当時から駅員1人勤務。したがって、貨物扱いがあるときは、猿投から、入換え要員が派遣されたという。貨物営業は昭和18年だったと思うが19年だったかも知れないと「当時、実際猿投駅勤務で、貨物扱いのとき三河御船に派遣されていた人(原田さん談)はいう。また、三河御船は三河線内で最初に駅員無配置駅化(昭和27年1128日)になった駅でもある。



河津桜開花…平成24年3月27日

梅花と共に春が来た…平成24年3月20日





満開の河津桜…平成 24 年 4 月 1 日



廃線後植樹した河津桜並木も鮮やかなピンク色…平成 24 年 4 月 1 日

桜&菜の花…平成 20 年 4 月 2 日





桜の葉も青々と…平成20年5月12日



ホーム脇で咲く錢葵の花…平成 20 年 6 月 4 日



夏の花・向日葵…平成19年8月9日



復活した？1号踏切脇に咲く彼岸花…平成23年9月27日

サルビアや日日草などが咲く…平成23年9月27日



下…平成24年9月29日





平成 17 年 12 月 19 日



平成 20 年 2 月 10 日

平成 23 年 1 月 17 日





平成 24 年 2 月 2 日





猿投

猿投駅の土地は井上徳三郎から寄贈されたもの。

井上徳三郎は、名古屋市出身

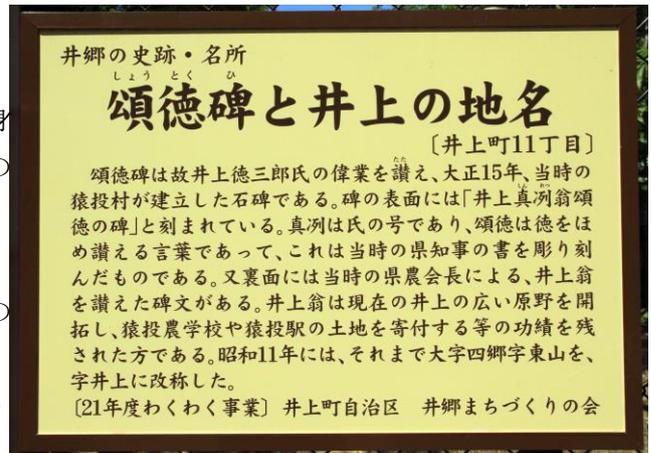
の実業家で大正元年、猿投村大字四郷字東山一帯の土地 130 町歩を買い「井上農場」を開く。

大正 12 年に寺部の農学校が郡制廃止で経営難となり困窮していたとき、農場の一部を寄贈して現在の県立猿投農林高校を誘致。

また、大正 13 年に三河鉄道を敷設するために奔走し、猿投駅の土地も寄贈した。

昭和 11 年に井上徳三郎の偉業を後世に伝えるため、猿投村議会の決議で、大字四郷字東山から大字四郷字井上に改められ、現在は豊田市井上町と呼称している。

記録によると大正 14 年 10 月 8 日、猿投駅で足助延長線の起工式が行われ、昭和 4 年 2 月 10 日、西中金～追分(井ノ口)間の建設工事に着手したが、陽の目を見ずに昭和 33 年 6 月 27 日に鉄道起業廃止をした。



平成 5 年 9 月 1 日新駅舎完成





梅開花…平成 22 年 2 月 28 日



梅花満開…平成 24 年 3 月 20 日

行止まり線の白梅…平成 25 年 3 月 9 日



1000 系…平成 19 年 7 月 16 日





1000系2連8両…平成19年8月9日

乗降風景…平成20年7月5日撮影



1600系…平成20年7月5日



彼岸花…平成 24 年 9 月 29 日



構内風景…平成 22 年 11 月 26 日



木々の黄葉…平成 23 年 11 月 26 日



名古屋では 58 年振りの大雪(23 cm)とか…平成 17 年 12 月 19 日





平成 20 年 2 月 10 日



猿投駅前ロータリー…平成 25 年 3 月完成

あれから 10 年 山線・三河線廃線区間

初版印刷	平成 26 年 3 月 28 日
発行	平成 26 年 3 月 31 日
著者	新 實 守
印刷	Canon PIXUS MG6 2 3 0

